

埋文群馬

MAIBUNGUNMA



はじめに

ハッ場ダムに伴う発掘調査は、平成6年から始まり、令和元年9月に終わりました。

26年間にわたる発掘調査の中で、縄文時代～江戸時代までの様々な遺跡が発見され、ハッ場の地域を知る手がかりとなる数多くの成果が得られました。

また、令和元年10月には、発掘調査の終了に伴う写真展「写真で見るハッ場ダム26年の発掘調査」を発掘情報館遺跡情報室において催しました。

このたび、ハッ場ダム建設工事に伴う全ての調査を終えることを記念して、写真展の内容をもとに特に印象的な遺構や遺物を年度ごとに紹介します。ハッ場の地域で暮らしていた古の人々に想いを馳せる一端となれば幸いです。



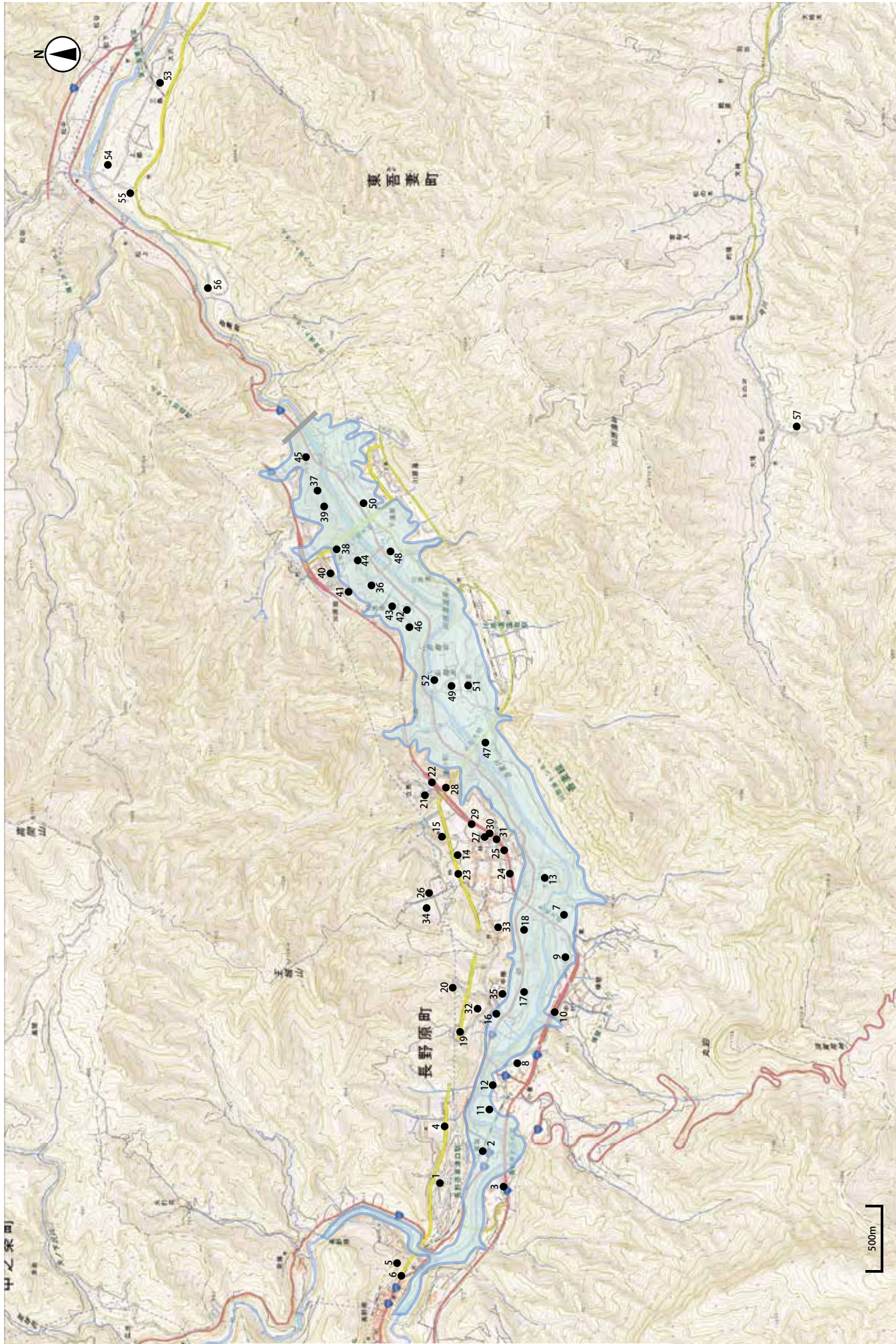
公益財団法人

群馬県埋蔵文化財調査事業団

<http://www.gunmaibun.org/>

発掘調査遺跡一覧

No.	遺跡名	所在市町村名	所在大字	No.	遺跡名	所在市町村名	所在大字	No.	遺跡名	所在市町村名	所在大字
1	ながのはらいっほんまつ 長野原一本松遺跡	長野原	長野原	20	にたんざわ 二反沢遺跡	長野原	林	39	じしゃだいら 二社平遺跡	長野原町	川原畑
2	おさか 尾坂遺跡			21	だつめいち 立馬Ⅰ遺跡			40	さんだいらに 三平Ⅱ遺跡		
3	くぐど 久々戸遺跡			22	だつめに 立馬Ⅱ遺跡			41	うえのたいらいち 上ノ平Ⅰ遺跡		
4	さいのかみ 幸神遺跡			23	うえはらまん 上原Ⅳ遺跡			42	にしみや 西宮遺跡		
5	ながのはらじょうあと 長野原城跡			24	はやしなかはらいち 林中原Ⅰ遺跡			43	にしみやいわかげ 西宮岩陰		
6	まち 町遺跡			25	はやしなかはらに 林中原Ⅱ遺跡			44	みつどういわかげ 三ツ堂岩陰		
7	よこかべかつぬま 横壁勝沼遺跡	横壁	横壁	26	うえはらに 上原Ⅱ遺跡	長野原町	川原湯	45	いしはたいちいわかげ 石畑Ⅰ岩陰		
8	にしくぼいち 西久保Ⅰ遺跡			27	はやしのおつか 林の御塚			46	かわらばたのほうきまいんどう 川原畑の宝篋印塔		
9	よこかべなかむら 横壁中村遺跡			28	だつめさん 立馬Ⅲ遺跡			47	かわらゆかつぬま 川原湯勝沼遺跡		
10	やまねさん 山根Ⅲ遺跡			29	ひがしほらいち 東原Ⅰ遺跡			48	にしのうえ 西ノ上遺跡		
11	にしくぼよん 西久保Ⅳ遺跡	林	林	30	ひがしほらに 東原Ⅱ遺跡	東吾妻町	三島	49	いしかわら 石川原遺跡		
12	にしくぼご 西久保Ⅴ遺跡			31	ひがしほらさん 東原Ⅲ遺跡			50	しもゆばら 下湯原遺跡		
13	しもだ 下田遺跡			32	にれぎいち 楡木Ⅰ遺跡			51	かわらゆなかはらさん 川原湯中原Ⅲ遺跡		
14	うえはらいち 上原Ⅰ遺跡	林	林	33	はやしみやはら 林宮原遺跡	川原畑	大柏	52	まえはら 前原遺跡		
15	はなばたけ 花畑遺跡			34	うえはらさん 上原Ⅲ遺跡			53	かみごうび 上郷B遺跡		
16	にれぎさん 楡木Ⅲ遺跡			35	なかたないち 中棚Ⅰ遺跡			54	かみごうおかのほら 上郷岡原遺跡		
17	なかたなに 中棚Ⅱ遺跡			36	ひがしみや 東宮遺跡			55	かみごうえー 上郷A遺跡		
18	しもはら 下原遺跡	楡木Ⅱ遺跡	楡木Ⅱ遺跡	37	いしはた 石畑遺跡	川原畑	大柏	56	かみごうにし 上郷西遺跡		
19	にれぎに 楡木Ⅱ遺跡			38	さんだいらいち 三平Ⅰ遺跡			57	ひろいしえー 廣石A遺跡		



発掘調査遺跡位置図 ※水色枠は水没地

調査前 航空写真
(平成8年度撮影)





1 長野原一本松遺跡 調査風景【縄文時代】

縄文時代中期～後期のムラの中で発見された、列石や配石の調査風景です。現地説明会に向けて立石（▼）を復元しました。



1 長野原一本松遺跡 列石・配石遺構全景【縄文時代】

限られた調査範囲の中に列石や配石が発見され、縄文時代のムラの一部が確認できました。

長野原地区では縄文時代の遺跡のほか、天明泥流(てんめいでいりゅう)によって埋もれた畑や建物が次々と発見され、この地域にも被災した村が残っていたことがわかりました。天明泥流とは、江戸時代の天明三(1783)年の浅間山の噴火に伴う泥流を指します。吾妻川から溢れたこの泥流は、吾妻川や利根川流域に甚大な被害をもたらしました。



9 横壁中村遺跡 調査区に広がる多量の石【縄文時代】

調査区に広がる多量の石が、遺構なのか自然の礫なのかを慎重に見極めながらの調査が必要でした。



9 横壁中村遺跡 うめがめ 埋甕【縄文時代】

多量の石の中から列石や配石、立石、埋甕などが発見されました。埋甕は口を下にして地面に埋められていました。

この年から始まった横壁地区の調査では、長野原一本松遺跡と同じく、縄文時代中期～後期の遺構が次々と発見され、大規模な集落であったことがわかりました。



47 川原湯勝沼遺跡 天明泥流下の畑の調査風景【江戸時代】

浅い溝状に見えるのが畑の畝（うね）で、手前に見える白い筋は、天明三年の浅間山の噴火で降下した軽石です。軽石を取り除き、畝の形を出す調査をしています。



4 幸神遺跡 畑の跡【平安～江戸時代】

白い囲いがサクとみられる耕作の跡で、天明三年の浅間山の噴火以前の畑と考えられますが、明確な時期は不明です。

川原湯勝沼遺跡のほか、下田遺跡、東宮遺跡でも泥流に埋もれた畑が次々と発見されました。耕作土の分析によりイネやムギ、ソバを栽培していた可能性があることがわかりました。イネやムギは肥料として使われたとも考えられます。



9 横壁中村遺跡 配石墓群【縄文時代】

縄文時代後期・晩期の石組みの墓が集中して発見されました。平らな河原石を底に丁寧に敷き詰めた墓もあり、手厚く葬られたことが伝わります。



9 横壁中村遺跡 26号配石【縄文時代】

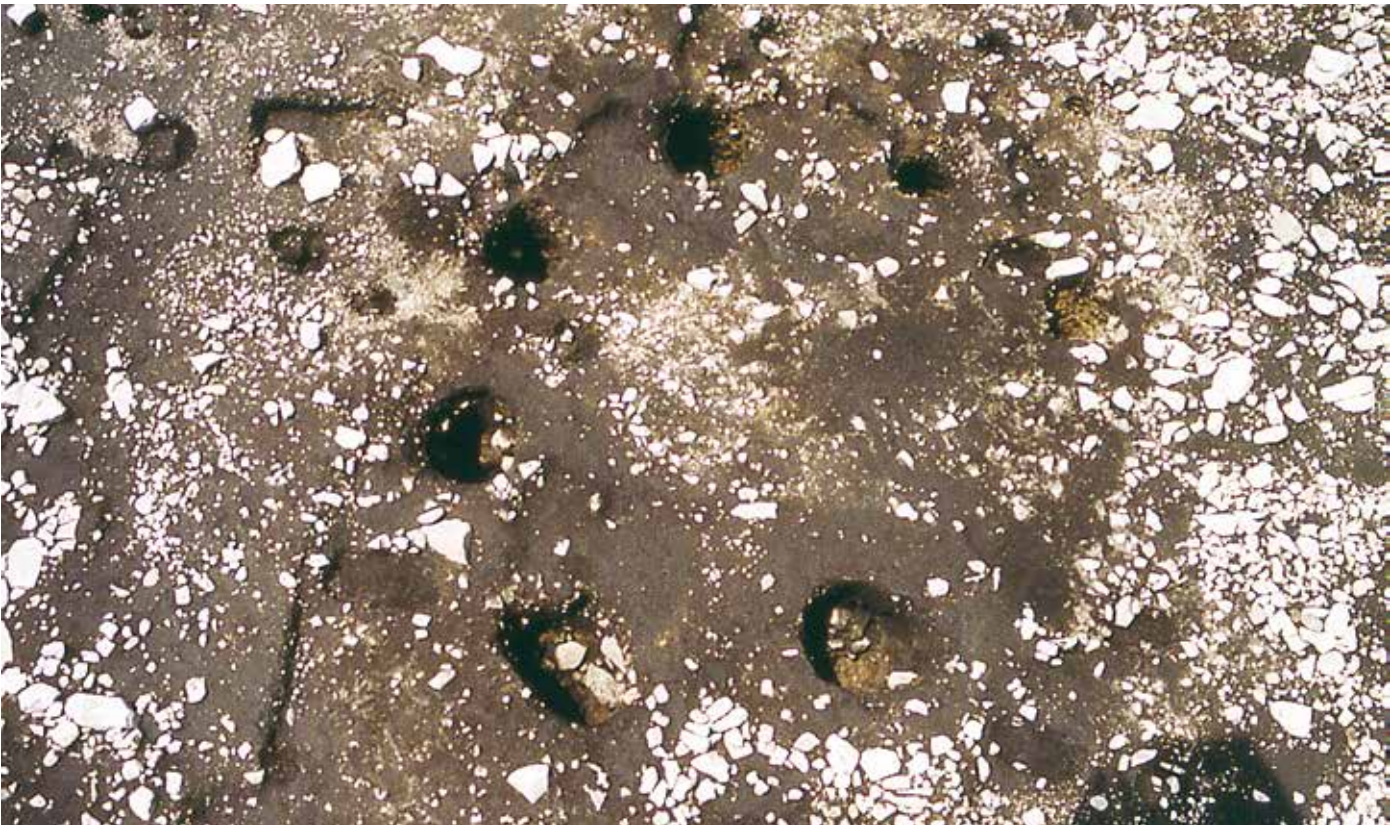
石を底に敷き詰めたこの配石墓から、一対の土製の耳飾りが出土しました。故人が身につけていたものでしょう。

ハツ場地域ではたくさんの縄文土器が出土しており、関東地方と信州地方の土器が半々に使われていることから、両地方との交流があったことがわかってきました。



3 久々戸遺跡 古道【江戸時代】

天明泥流下から山裾と畑の境を通る道が発見されました。草津へ向かう当時の街道と考えられます。道の脇からは石垣や樹木の痕が所々見られました。



9 横壁中村遺跡 ウッドサークル?【縄文時代】

直径約 1 m、深さ 1.5 ~ 1.8 m の柱穴が径約 7 m の円形に並んでいました。どのような施設だったのでしょうか。

横壁中村遺跡では中世の屋敷跡も発見されました。低い石垣の区画の中に建物が 3 棟あり、周囲では鍛冶の跡も発見されています。近くには柳沢城や丸岩城もあり、興味深い成果となりました。



19 榎木Ⅱ遺跡 重複した竪穴建物【縄文時代】

縄文時代早期初頭～中期前半の竪穴建物が発見されました。約 9,000 年前の縄文時代早期初頭の竪穴建物は 30 棟ほどあり、当時の集落としては県内で最大規模です。



8 西久保Ⅰ遺跡 調査風景

ジョレンや移植ゴテなどの道具を使って、掘り下げ作業をしています。

榎木Ⅱ遺跡の縄文時代の集落では、関東地方の土器と信州地方の土器が同じ竪穴建物で使われており、信州地方との交流を示しています。



17 中棚 II 遺跡 天明泥流下の畑の作物の石膏型取り【江戸時代】

泥流下の畑で発見された作物の痕跡に石膏を流し込み、型取りをしています。石膏の形からサトイモが植えられていたことが分かりました。



54 上郷岡原遺跡 カマドのある竪穴建物【平安時代】

10 世紀の竪穴建物です。カマドにはほぼ完形の壺が残されており、煮炊きに使用していたものと考えられます。

調査が進む中、八ッ場の地域では弥生時代中期後半～奈良時代の集落が希薄なことが分かりました。標高約 540 m、冬はマイナス 14℃まで気温が下がるこの地域は、稲作には不向きだったのでしょうか。



54 上郷岡原遺跡 天明泥流下の畑と規則的に並ぶ円形平坦面【江戸時代】

畑から麻と見られる植物の痕跡が発見されました。また、直径1 mほどの円形の平坦面（人が立っている場所）が規則的に並んでおり、これは肥料を作るために置いた桶の跡と考えられます。



21 立馬 I 遺跡 土器棺墓【弥生時代】

完形の甕と下半分を欠いた壺を合わせ、別の土器の底部で口に蓋をしていました。中から骨などは見つかっていませんが、形態から土器棺墓と考えられます。

上郷岡原遺跡周辺は江戸時代も麻の産地として有名でした。遺跡からは畑のほか、ねど倉と呼ばれた麻の処理施設に近い規模の竪穴建物が発見されました。



9 横壁中村遺跡 大型高床建物【縄文時代】

約 4,000 年前の縄文時代後期の建物で、10 本の柱を長方形に配置し、長軸に棟持ち柱をつけたものです。南北に合わせた長軸は 12.5 m、柱穴の直径は約 1 m、深さ 1 ~ 1.5 m もあり、このムラを象徴する建物だったと考えられます。



土坑の中から発見された銭

出土した銭は、紐を通してまとめられた銭縵ぜにさしを含み「寛永通宝」「明銭」「北宋銭」計 362 枚もありました。

9 横壁中村遺跡 銭が埋められていた土坑【江戸時代】

土坑の底から木製の曲物に入った銭が発見されました。

そのほか、横壁中村遺跡では列石を伴う柄鏡形敷石建物が数多く発見され、長野原一本松遺跡と共に、この地域を代表する縄文時代中期～後期の集落遺跡の一つであることがわかってきました。



18 下原遺跡 1号竪穴建物【古墳時代】

八ッ場地域では数少ない古墳時代の竪穴建物です。カマド周辺に土器が多くあり、中には榛名山南東麓との交流を示すものもありました。竪穴建物内とその周辺から白玉が 10 個発見されています。



47 川原湯勝沼遺跡 土器棺墓【弥生時代】

縄文系の深鉢（写真：左）は口を上にして、弥生系の壺（写真：右）は口を下にして埋められていました。どちらも縄文時代晩期末～弥生時代初めにかけての土器で、この中に遺体を埋納したと考えられます。

八ッ場地域では、県内で稲作が本格化する直前の時期の土器が多く見つかっています。縄文から弥生時代の変換期を人々はどのように受け入れたのでしょうか。



9 横壁中村遺跡 焼けた竪穴建物【平安時代】

9世紀中頃の竪穴建物です。カマドの左側から、板敷と考えられる6枚の炭化した板（幅20～25cm、厚さ1.5～4cm、長さ90～280cm）が並んで発見されました。



9 横壁中村遺跡 一字一石経【江戸時代】

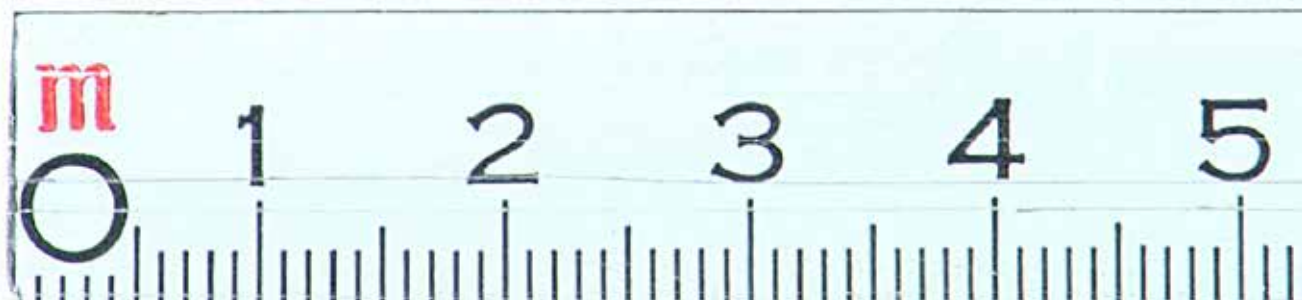
代替地の造成に伴い移動した観音堂の跡地から、多量の一字一石経が発見されました。これは小石にお経を一字ずつ墨で書いたもので、吾妻川の河川敷で採取できる石材が使われていました。

この地域では江戸時代後半に宝篋印塔（ほうきょいんとう）の造立が盛んになり、塔礎に一字一石経を埋納する風習があったようです。観音堂の一字一石経もこの風習によるものと考えられます。



3 尾坂遺跡 調査区遠景

左手に長野原めがね橋、中央に旧長野原町立東中学校があります。右下の三角形の部分で平成 18 年度の調査範囲です。



41 上ノ平 I 遺跡 平安時代の竪穴建物から出土した貞観永寶【平安時代】

焼失した竪穴建物（9 世紀後半～10 世紀前半）から発見された、皇朝十二銭の貞観永寶（870 年初鑄）です。

皇朝十二銭は、奈良時代～平安時代にかけて国内で鑄造された十二種類の銭貨の 1 つです。当時の日本ではほとんど流通しておらず、希少品・呪術品としての価値が高かったようです。手に入れるためには財力や地位が必要な貴重な銭貨で、この地域の平安時代の集落について考える上で興味深い発見となりました。



24 林中原 I 遺跡 林城の石垣を伴う土橋と堀【中世】

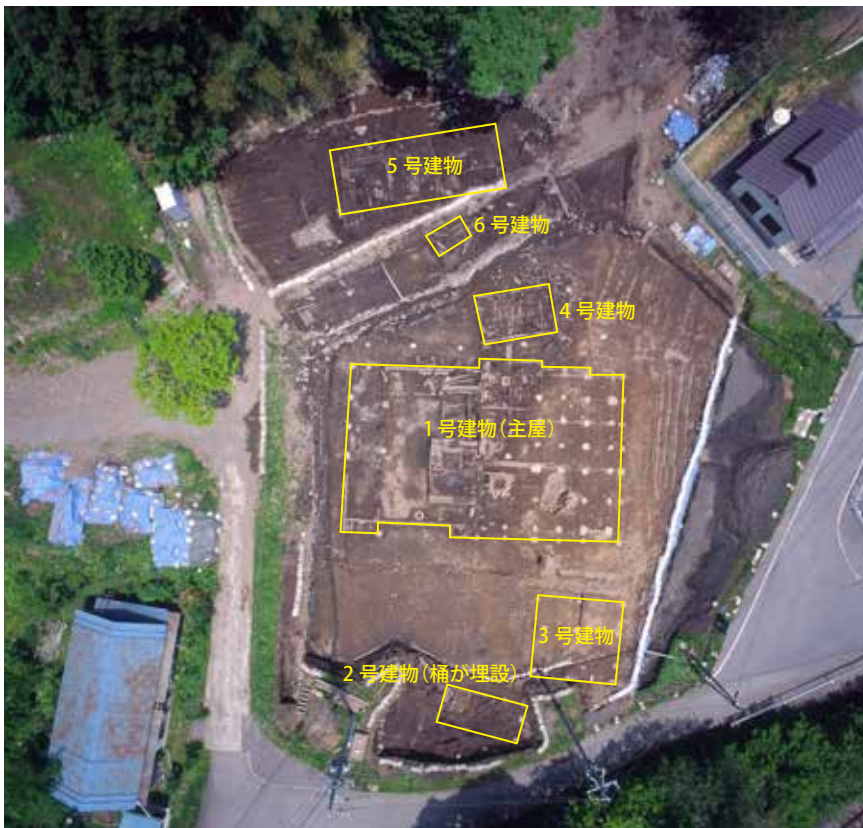
土橋は郭(くるわ)を区画する大堀に造られていたものです。高さ約1mの石垣は十分な強度を保っていました。また、遺跡からは中世の白磁や青磁など、貴重な陶磁器が多く発見されました。



24 林中原 I 遺跡 竪穴建物【中世】

南北2m、東西約2.5mの長方形をした建物です。床面のほぼ中央には内耳鍋(ないじなべ)を据えた炉がありました。鍋底が欠けていること、鍋内部に灰や焼土がこびりついていたことから、この中で火を焚いていたと考えられます。他に紙片や白磁などが発見されました。

林城の調査では、堀・石垣・池・土坑と多くの掘立柱建物などが発見された結果、段丘面先端部の地形を活かし、水場の確保と防御機能を備えた城であったことがわかりました。



うちわ
団扇出土状況

1号建物の土間から発見されました。柿渋を塗ったと考えられる赤色の紙が貼られていました。団扇の構造が埼玉県越生町の越生団扇の「一文字形」に酷似しています。



二朱銀他出土状況

5号建物の床上からは南鐮二朱銀なんりょうにしゅぎん (1772年初鑄) 4枚、あて小判2枚などが発見されました。あて小判は、小判を和紙で包むときに傷が付かないよう両側にあてがう真鍮版のこです。

36 東宮遺跡 天明泥流下の屋敷【江戸時代】

この遺跡には山からの水が豊富にさすため、建物の床板・カマド等の施設や、下駄・草履・わらじ・あんどんなどの生活用品、アズキ・アワ・キビ・ムギ・梅干しや繭まで当時の姿をとどめていました。



27 29 30 31 長野原町指定史跡「御塚」(▼)と東原遺跡

「御塚」の背後には林集落が広がっています。東原遺跡の調査では縄文時代～江戸時代にかけての遺構が発見されました。



25 林中原 II 遺跡 調査風景【縄文時代】

縄文時代中期後半～後期前半の約 1,000 年間にわたる大規模な集落が発見されました。大規模な集落の発見は長野原一本松遺跡と横壁中村遺跡に次ぐ 3 例目となりました。



25 林中原 II 遺跡 発掘体験のようす

長野原町立第一小学校の児童が発掘体験をしました。今から 4,500 年も前の縄文土器を自分の手で掘ることができて、とても嬉しそうにしていました。



2 尾坂遺跡 何のため？セットで出土した土器【弥生時代】

鉢形土器と筒形土器がほぼ完形で寄り添うように出土しました。2つの弥生土器には沈線文や細かな縄文が付けられており、縄文時代の伝統を色濃く残しています。どちらもほぼ無傷で何らかの意図があり置かれたと考えられます。



2 尾坂遺跡 さいそうぼ 再葬墓の発見【弥生時代】

直径約 1 m の範囲で大きな石と小さな石が集中して発見されました。

石の下から発見された土器

上の写真にある石を取り除いて土を掘り下げたところ、80 cm もの大きな壺形の土器が横倒しに潰れており、その底部からは小型の壺も発見されました。大きな壺形の土器には東海地方特有の櫛歯状文様が見られ、東海地方との交流を示しています。小型の壺には縄文が見られ、在地の系統を示しています。



再葬墓は稲作が本格化する前に東日本で流行した葬法で、遺体を埋葬して白骨化させたのち骨を洗い清め、再度壺や甕に納めて埋葬します。尾坂遺跡の再葬墓も弥生時代中期前半にあたり、周囲には 20 基以上の土坑があることから、この時期に人が住んでいた可能性があります。



11 西久保IV遺跡 天明泥流下の調査風景【江戸時代】

天明泥流下の畑の調査をしており、左奥に長野原めがね橋、右奥にJR 吾妻線の新しい橋が見えます。ここは尾城遺跡の対岸にあたりますが、天明泥流が直撃した場所で、畝の形がはっきりとわからなほいに畑が削られていました。



天明泥流下から発見された横笛

床下の泥流を取り除いたところ、赤や黒の漆で装飾された横笛が出土しました。

6 町遺跡 天明泥流下の建物【江戸時代】

1 m以上の厚さの泥流下から、建物の床板の一部分のほか、多くの漆塗りの下駄・塗り膳・塗り箸と共に団扇・扇子・横笛・将棋の駒や遊興用とみられる小さな弓が発見されました。また、漆製品や木製品に焦げた痕跡がみられないため、ここに到達した泥流は高温でなかったと考えられます。



38 三平Ⅰ遺跡 調査区近景【平安時代】

右奥に見えるのが、建設中の八ッ場大橋の橋脚部分です。調査区はその延長線上にあたり、縄文時代早期～平安時代の土器などが発見されました。縄文時代早期の土器は類例が少ないので貴重な資料と言えます。



2 尾坂遺跡

天明泥流下の畑【江戸時代】

最大で 2 m 近い厚さの天明泥流下から、南に緩やかに傾斜する畑が発見されました。日当たりのよい耕作地で、当時はこのような景観が広がっていたことが想像できます。



2 尾坂遺跡

耕作土下から姿を現した石組の暗渠【江戸時代】

「Y」字状に伸びるの石組の暗渠が耕作土の下から発見されました。暗渠とは地中に埋設された水路のことで、ここでは水はけの悪い畑の排水のために造られたようです。80 cm ほどの掘り込みに側壁として礫を据え、その上に礫の蓋をし、さらに上に礫を厚く被せていました。



13 下田遺跡 天明泥流の中から発見された浅間石【江戸時代】

天明三年の浅間山噴火に伴い、泥流に乗って流れ着いた長さ 8 m もの岩です。当時の記録には「火石（かせき）」と書かれたものもあります。下田遺跡では天明泥流下から数軒の家と畑が確認されました。天明泥流は厚いところで 2 m 以上も堆積していました。



36 東宮遺跡 姿を現した川原畑村東宮集落の一部【江戸時代】

集落の中央には石組の水路が築かれ、周辺には造り酒屋や屋敷がありました。



36 東宮遺跡 水場と使われていた臼【江戸時代】

それぞれの屋敷に井戸があり、井戸の水を水場の水と使い分けていたようです。石臼の底には穴があいており、栓をして水を溜められるようになっていました。

この年度から水没地を対象とした発掘調査が始まり、尾坂・下田・石川原・西宮・東宮遺跡の5遺跡から着手しました。いずれも吾妻川に隣接する場所にあるため天明泥流が厚く堆積しており、被災した集落や畑が埋もれていました。



密教法具出土状況

庫裡（寺院の台所）とみられる建物跡の床下からまとまって発見された密教法具です。火舎香炉を除く六器などの法具が出土しました。

49 石川原遺跡 天明泥流に埋もれた寺院（本堂）【江戸時代】

被災のため礎石や階段周辺の敷石だけが残っていました。当時の記録や密教法具から「不動院」という天台宗の寺院だったと推定されます。



48 西ノ上遺跡 復旧坑群【江戸時代】

復旧坑とは、泥流で埋もれた畑の耕作土を溝状に掘り上げた中に泥流を埋めて（天地返し）、畑の復旧をした跡のことです。人力でこれほどまでの復旧作業を終え、無事に作物が実るまで、どれほどの労力と時間が必要だったでしょう。



3 久々戸遺跡 柄鏡形敷石建物【縄文時代】

柄鏡のような形をした、床全面に平らな石を敷き詰めた竪穴建物が発見されました。現在は長野原町役場に移築し、展示されています。



49 石川原遺跡 天明泥流に埋もれた屋敷【江戸時代】

天明泥流下から次々と発見された各屋敷に井戸はなく、道沿いに造られた石組の水路から水を得ていたようです。写真は母屋のほか、4棟の建物を持つ屋敷で、母屋から倉と思われる建物に向かって飛び石が並べられていました。



41 上ノ平Ⅰ遺跡 ^{おと} 陥し穴の調査風景【平安時代】

大きい穴で成人男性がすっぽりと入るほど深いものもありました。陥し穴は40基以上もあり、動物を捕獲するほかに堅穴建物や畑を守る役目もあったのかもしれませんが。



42 西宮遺跡

天明泥流下の建物群の調査風景【江戸時代】

調査区内に豊富な湧水があり、建物の建築部材が良好な状態で出土しました。桶、薬缶、硯箱、煙管、櫛などの生活用具も多量に発見されました。

建物内から発見された生活道具と織機の一部

漆塗りの椀などの生活道具のほか、箒や経巻具などの織機の一部も見つかっています。



17 中棚Ⅱ遺跡

天明泥流下の畑と古代～中世の遺構

江戸と古代～中世の遺構を同時に撮影したものです。左側は天明泥流下の畑と復旧坑群、右側は平安時代の竪穴建物や陥し穴、中世の掘立柱建物群です。



45 石畑Ⅰ岩陰 調査風景

投光器を頼りに進めた調査では、江戸・平安・弥生・縄文時代の灰層のほか、シカやイノシシなどの動物の骨が数多く発見されました。



42 西宮遺跡 建物群と道【江戸時代】

吾妻川流域の村と村をつなぐ、地域のメインストリートと考えられます。現代の道とほぼ同じ位置で発見されました。石垣に補強された道の幅は約 1.8 m (6 尺 = 1 間) で、脇には排水路が掘られていました。



36 東宮遺跡 列石が連なる集落【縄文時代】

縄文時代後期の集落で、斜面に沿って大小の石が 3、4 と列をなしています。竪穴建物の出入口に沿って石垣のように並べられており、ムラを代表する人物が何代かにわたって暮らしていたのかもしれませんが。



49 石川原遺跡 27号建物調査風景【江戸時代】

天明泥流に埋もれた建物で、敷居などの建築部材が残っていました。八ッ場ダム関連の発掘調査では、初めて被災した人骨が発見された建物でもあります。



水場

トチやドングリなどの果実をすり潰して水に晒し、灰汁を抜いて食料とするための施設で、写真中央の長方形の石組が水晒しの作業場です。



岩版出土状況

岩版は、マツリや祈りを捧げる時など、特別な時に使用した護符（お守り）のようなものと考えられています。

49 石川原遺跡 集落の調査風景【縄文時代】

竪穴建物のほかに、列石・配石、水場、配石墓など生活に関係するさまざまな遺構が一体となって発見されました。遺物も数多くの土器・石器のほかに岩版、石棒、装身具などがあり、八ッ場地域の縄文時代の集落のあり方を知る上で非常に重要な調査となりました。



50 下湯原遺跡 割石を使った水路【江戸時代】

湧水を排水するため、割石を使った水路が畑に造られていました。



36 東宮遺跡 調査区全景【縄文時代】

縄文時代中期～後期の敷石建物や配石が、列石に伴い発見されました。

このほか、石川原遺跡で縄文時代の配石墓群が発見されました。横壁中村遺跡の配石墓群（平成 10 年）と同じく後期～晩期の集落に伴うもので、中には底面に石を敷きつめた墓もありました。

掲示板

お知らせ

1 令和3年度最新情報展 第1期「古代の文房具(仮)」予定

■筆・墨・硯・紙は、奈良・平安時代に文房四宝とよばれ、文字を書くには欠かせない物でした。硯を中心に、当時の文字が使われた様子から群馬の古代史を探ります。令和3年5月16日(日)からの開催に向けて、只今準備中です。

2 令和3年4月3日より、長野原町に「やんば天明泥流ミュージアム」OPEN！！

■本文で紹介した天明泥流について、その被害や当時の暮らし、集落の様子などを、遺物や模型、映像によって詳しく紹介する施設がオープンします。また、天明泥流のほか、八ッ場地域に関するテーマ展示も行います。詳しくは、やんば天明泥流ミュージアムの公式ホームページをご覧ください。



写真提供
長野原町教育委員会

3 電子メールにより行事案内をお知らせしています。

■当事業団では、年間を通じて展示会や講演会などを催しています。

電子メールによるこれらの案内を希望される方は、下記のアドレスより申込みをしてください。

なお、受付時の事務処理上、事業団へ送信していただく電子メールのタイトルは「行事案内希望」とし、郵便番号、住所、氏名、連絡先電話番号を記入してください。

■電子メール送付先

gunmaifukyu @ apricot.ocn.ne.jp



※携帯電話アドレスへの連絡を希望される方は、パソコンからのメールが受信できるように携帯電話の設定をしてください。



表紙解説

完成間際の八ッ場ダムです。ダムサイトに向かってダムの中側から撮影されたもので、もう見ることができない景色を撮った、貴重な写真です。

本紙は一般向けの埋蔵文化財情報誌です。
当事業団ホームページ (<http://www.gunmaibun.org/>) からPDFをダウンロードしていただけるようになりました。
お問い合わせは、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団普及課 電話 0279-52-2513 までお願いします。

「埋文群馬」No. 66
令和3年3月31日発行
発行 公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555 渋川市北橘町下箱田 784-2
☎ 0279-52-2513